

要 約

昭和47年4月から48年3月まで漁業実態をはあくするため標本船調査および統計調査を実施した。

1. 鳥取県のヒラメ漁獲状況は昭和44年198トン进行ピークに増加傾向から近年120トン台の安定傾向に転じた。
2. ヒラメ漁獲の80%は小型底曳網(桁網)、1そう曳機船底曳網の順である。
3. 地域別では境港、賀露、泊の順で11月には1曳網200~350kgに達する。
4. 賀露小型底曳網のヒラメ月別銘柄別組成の最高率はつぎのとおりである。

小ヒラメ(25cm以下)	6月	74.4%
中ヒラメ(25~40cm)	10月	78.0%
大ヒラメ(40cm以上)	3月	12.2%
5. 漁場の動きをヒラメについて時期的、水深別にみるとつぎのとおりである。

春期(4~6月)	水深50~60m	秋期(10~12月)	水深35~40m
夏期(7~9月)	100~115m	冬期(1~3月)	40~60m

ヒラメの生活史および漁業実態調査 (聞きとり調査)

梶 川 晃

調 査 方 法

対象魚種について、前述の漁業種類別に発育段階別の出現時期、場所、混獲魚種、捕食餌料等について、聞き取り調査を実施した。

結 果 と 考 察

本県においてヒラメを漁獲している主な漁業種類では、小型底びき網、三重網、一本釣り、二そう曳があり、その漁獲量等については前述のとおりである。

発育段階別、各漁業種類別に聞き取りをまとめたものが表1で、要約すると以下のとおりである。また、漁業種類別の各発育段階の漁場図は図1のとおりである。

表 1 聞取り結果表

稚魚期

漁業種類	地域	出現時期	出現海域	移動廻游	混獲魚種	捕食魚	底質	備考
小底曳網	東部～中部	6～9月	水深15m以浅 特に10m以浅	10・11月に20～30 m層に移動	ササウシノシノタ		砂	
	中部	6～9月	水深30m以浅		ササウシノシノタ	シラス、カタクチ	砂	
	美保湾	6～9月	20m以浅、特に10～20m	晩秋沖合へ移動	稚魚、小エビ		砂・泥	
三重網	西部 美保湾	5～10月	20～40m		メバル		砂、小石	

若魚期

漁業種類	地域	出現時期	出現海域	移動廻游	混獲魚種	捕食魚	底質	備考
小底曳網	東部～中部	周年	水深30m以浅 10～20m			カタクチ	砂	
	中部	〃	20～50m			シラス、カタクチ	砂	
	美保湾	〃	水深30m以浅 20m前後		マダイ、ヒメジキス、小イカ	カタクチ	砂・泥	
二そう曳		4・5月中心	水深70m中心		タイ、カワハギ カナガシラ	アミ	砂	
三重網	西部 美保湾	周年	水深30～60m		メバル		小石、砂	

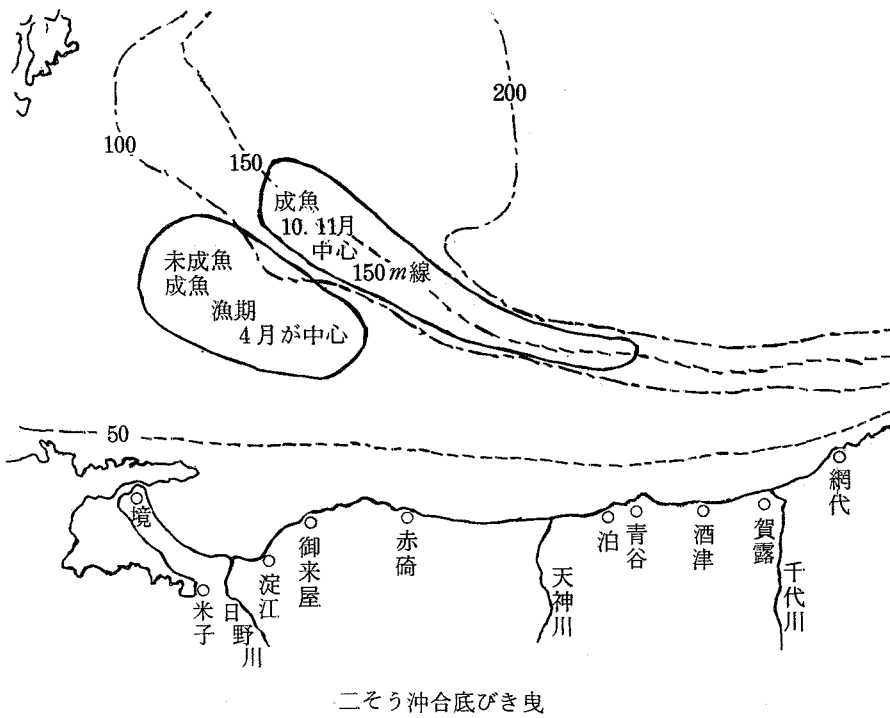
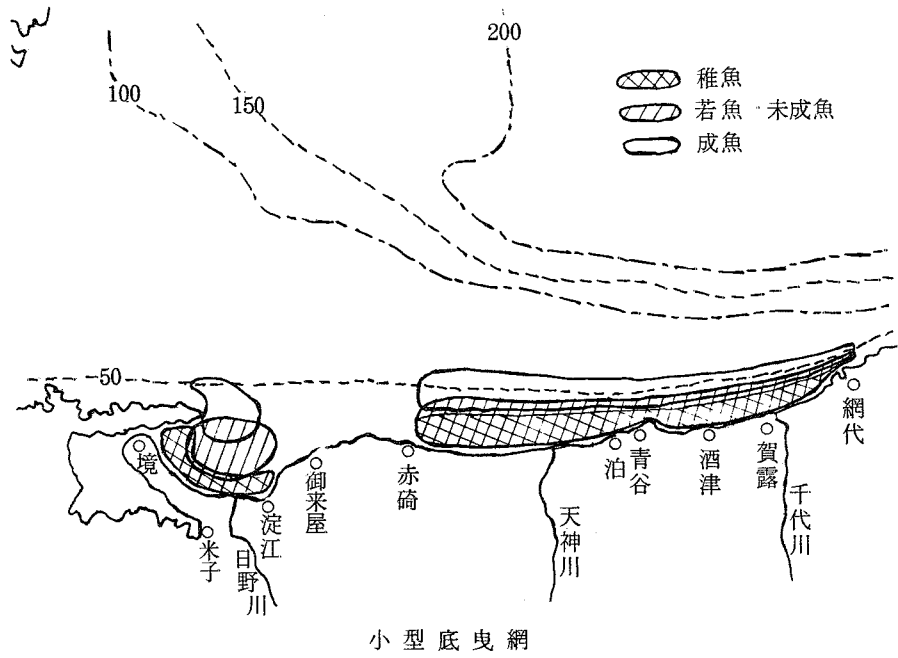
漁業種類	地域	出現時期	出現海域	移動廻游	混獲魚種	捕食魚	底質	備考
一本釣り	東部	8~10月	水深15~30m	小アジ、カタクチについて表層へ浮く	スズキ、カレイ	アミ、アジ	砂	
	中部~西部	周年	水深50m前後					

未成魚期

漁業種類	地域	出現時期	出現海域	移動廻游	混獲魚種	捕食魚	底質	備考			
小底曳網	東部~中部	周年(9~11月)	15~40m	10・11月にごく灘へ接岸する。水温低下により沖合へ	ササウシノシタ マダイ、ヒメメジ 小イカ、キス	カタクチ	砂・小石				
	中部	周年	20~50m								
	美保湾	周年	30~50m								
二そう曳		4月中心	50~100m 70m中心		タイ、カワハギ カナガシラ	アミ	砂				
三重網	西部	周年	30~60m	秋期イワシについて接岸	メバル、エソ メイタガレイ	カタクチ イワシ、イカ					
	美保湾	3~4月	40m前後								
一本釣り	東部	周年(11~12月)	50~70m	礁のまわりに多い	スズキ、カレイ	アジ	砂				
	中部	周年	20~35m						〃	イワシ	砂
	西部	周年 秋に多い	50m前後						〃	エソ、ホウボウ	カタクチ

成魚期

漁業種類	地域	出現時期	出現海域	利動廻游	混獲魚種	捕食魚	底質	備考
小型底曳	東部～中部 美保湾	2～6月 5～6月 10～11月	50～60m 30～50m	10・11月に水深10mぐらいまで灘へ入る。その後水温の低下にともない沖合へ	タイ、キス 小エビ	カタクチ キス	泥 砂 貝がら	
二そう曳	淀江沖～泊沖	10～11月中心 12～2月	150～200m 150m線中心		タイ、カワハギ カナガシラ		泥	50cm級中心、時々1m級も取れる
三重網	西部 美保湾	周年、特に春と秋に多い 3～4月	50～150m 40m前後	5月に20～40m線で漁獲がみられる	メバル、エソ メイタガレイ	カタクチ イワシ、イカ	泥 砂	
一本釣り	西部 東部 中部	周年、春・秋 周年、3～5月 4～5月	50m前後 70～100m 50m前後	10月イワシについて索餌接岸する 産卵のため浅瀬に移動	ハマチ、エソ ホウボウ	カタクチ アジ カタクチ	泥 砂 砂 砂	春、暑くなるにつれて産卵のため灘へ入ってくる



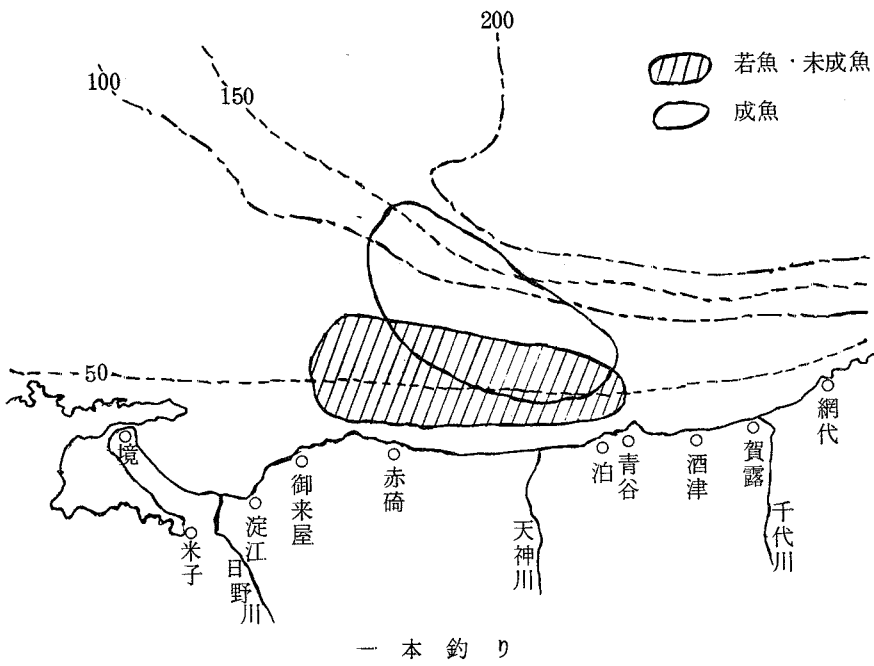
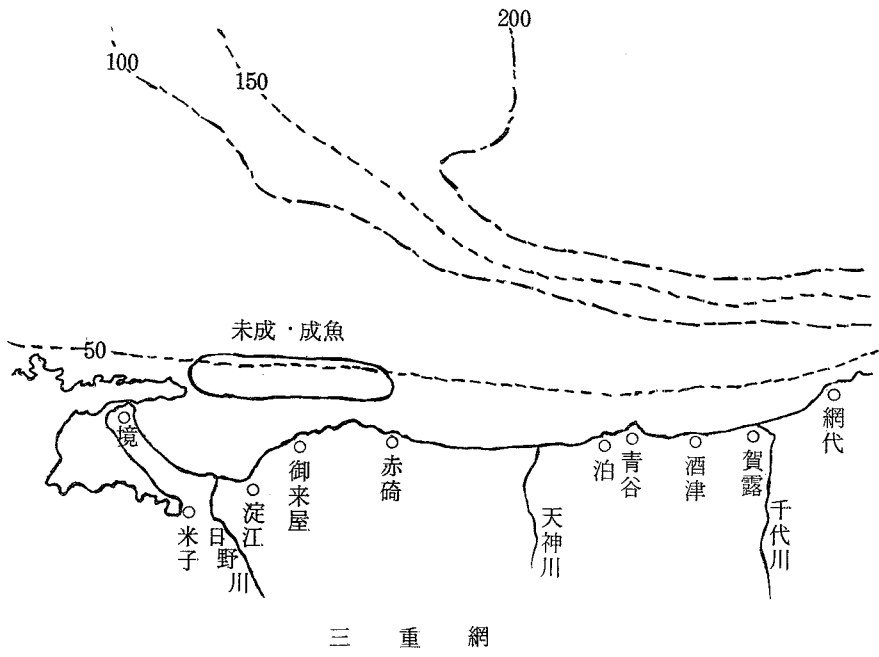


図1 漁業種別の各発育段階の漁場図

稚魚：6～9月に出現し水深20m以浅の砂場特に10m以浅に高密度に生息し、晩秋水温の低下にともない水深20～30mの若魚期の生息水深帯に移動する。捕食餌料はアミ類、シラス等である。

若魚：水深20～30m層に周年生息し、移動はほとんどなく、カタクチ、アミ類を捕食生活している。

未成魚：周年出現するが生息範囲が広く、密度の高い分布域は水深30～50m層であり、10・11月にカタクチにつきごく灘まで索餌接岸し、水温の低下にともない沖合へ分散する。

成魚：未成魚と同様、一部の瀬付き以外のものは10・11月に索餌接岸し、水温の低下にともない沖合へ分散し、春期5・6月に産卵のため30～50m層に接岸してくる。

本県沿岸のヒラメの大型群は、水深100～200mの中150m線を中心に索餌群、70～100mに産卵群の時期的に大きな動きがあり、隠岐島周辺の大陸棚沿いより加入してくるものと思われる。他に一そう沖合底曳網により大型のヒラメが漁獲されるが、調査が不十分なので今後の調査にまちたい。

注) 間取りに使用した発育段階の区分の定義

稚魚(TL 2～10cm)：10～15cmの間に大きく食性の変わる時期があると思われ、その後体長の伸びの一番良好な時期になるので、その大きさの前迄を稚魚とした。

若魚(TL 10～25cm)：全長の伸びの一番良好な時期であり、二次性徴が肉眼的に不明な大きさ。

未成魚(TL 25～50cm)：二次性徴は表われるが、生殖能力が十分発達していない大きさ。

成魚(TL 50cm以上)：生殖能力が十分発達している大きさ。